

株式会社 ニッキ

2024年3月期 決算説明会資料



*CARBON NEUTRAL*の実現に向けた着実な歩み

2024年5月29日

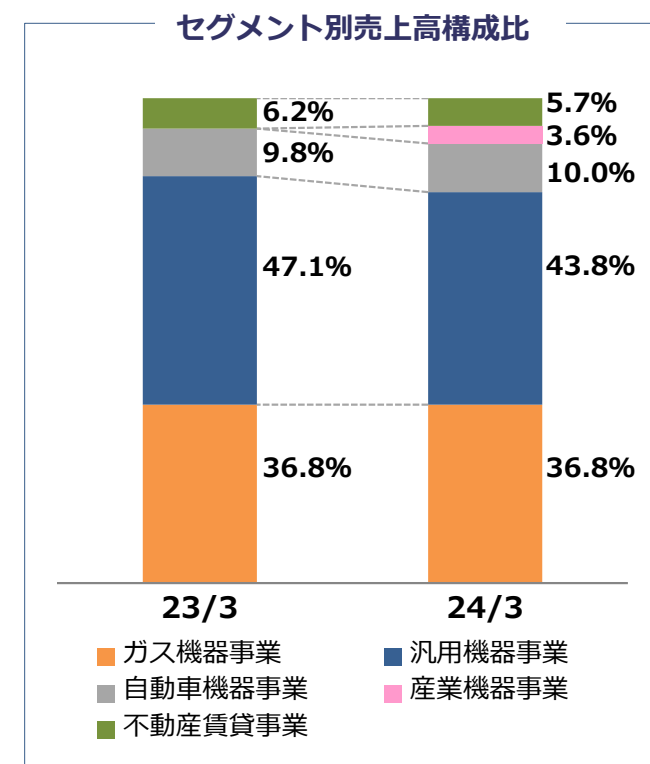
(証券コード6042・東証STD)

1. 会社概要
2. 2024年3月期決算概要
3. 2025年3月期の取り組みと業績見通し
4. 参考資料

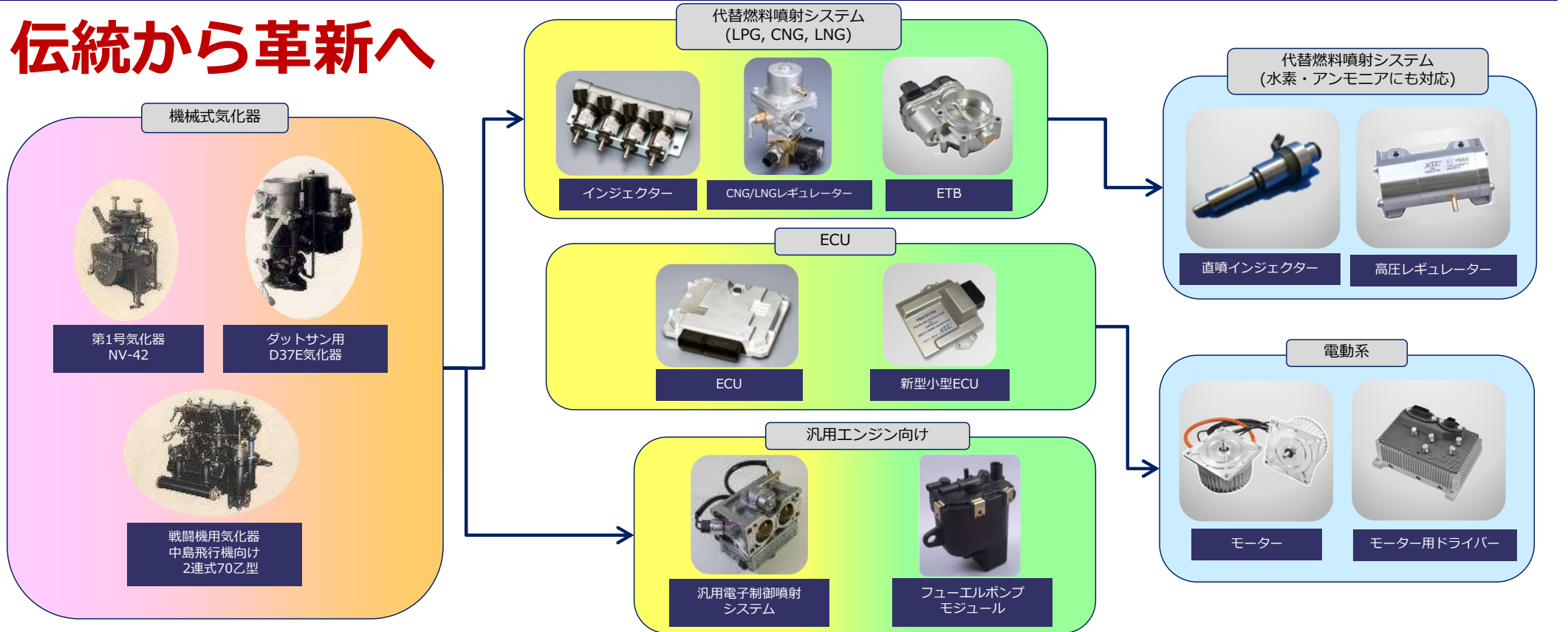
1. 会社概要
2. 2024年3月期決算概要
3. 2025年3月期の取り組みと業績見通し
4. 参考資料

CARBON NEUTRALの実現に向けた着実な歩み

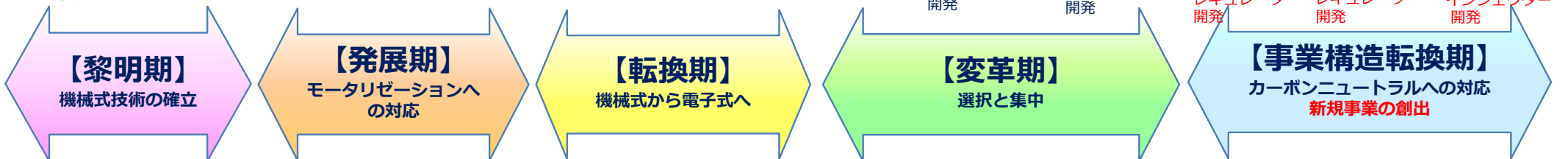
商号	株式会社ニッキ
所在地	神奈川県厚木市上依知3029番地
資本金	500百万円
代表者	取締役社長 和田 孝
設立	1932年2月
従業員数	506名（連結ベース、2024年3月末）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 天然ガス・LPG燃料供給システムの設計・開発および関連機器の製造 ■ 船舶・小型エンジン用気化器および燃料関連デバイスの設計・開発および製造 ■ 自動車エンジン用燃料関連デバイスの設計・開発および製造 ■ モーター制御基板の設計・開発および製造 ■ モーターおよびモーター制御プログラムの設計・開発 ■ 水素・アンモニア燃料供給システムの設計・開発および関連機器の製造 ■ 空圧制御機器部品の製造 ■ 不動産賃貸事業
関係会社	<ul style="list-style-type: none"> ■ NIKKI AMERICA,INC. ■ 瀋陽日新気化器有限公司 ■ NIKKI INDIA FUEL SYSTEMS PRIVATE LIMITED ■ NIKKI (THAILAND) CO.,LTD. ■ NIKKI KOREA CO.,LTD. ■ (株)ニッキ ソルテック サービス、ニッキ・テクノ(株) ■ (株)神奈川精工



伝統から革新へ



- 1932年2月 創立
- 1933年3月 自動車・航空機エンジン用気化器開発
- 1946年 自動車・農業エンジン用気化器、燃料ポンプ開発
- 1963年3月 自動車用LPGキャブレション装置開発
- 1982年 自動車用電子制御気化器、自動車用スロットルボディ開発
- 1985年 船舶機用気化器開発
- 1991年 圧縮天然ガス燃料システム開発
- 2001年 LPG電子制御気体噴射システム開発
- 2006年 汎用電子制御噴射システム製造
- 2009年 ガス用トップフィードインジェクター開発
- 2010年 CNG用1段式レギュレーター開発
- 2014年 LNG用1段式レギュレーター開発
- 2015年 熱交換器開発
- 2017年 新型小型ECU開発
- 2017年 フューエルポンプモジュール開発
- 2018年 ETB（重量車向け高耐久品）開発
- 2020年 水素用インジェクター、レギュレーター開発
- 2021年 48Vモータードライバー開発
- 2021年 アンモニア用インジェクター、レギュレーター開発
- 2023年 72Vモータードライバー開発
- 2023年 水素用筒内直噴インジェクター開発



事業部門の構成と製品

事業セグメント	ガス機器事業	汎用機器事業	自動車機器事業	産業機器事業	電動系・水素関連事業	不動産賃貸事業
市場	日本、北米、中国、インド、ヨーロッパ	米国、中国、日本	北米、日本、インド、東南アジア、中東	日本	中国、インド、ヨーロッパ、日本	東京都内に賃貸用ビルを4棟所有
主要顧客	いすゞ自動車 グローバルコンポーネントテクノロジー 豊田自動織機 広西玉柴機器（中） 三一集団（中） 東風康明斯（中） 福田康明斯（中） Maruti Suzuki（印） Westport（欧）	Briggs & Stratton（米） Kohler（米） Cummins Power Generation（米） 常柴股份有限公司（中） 光陽工業（台湾） 川崎重工 ヤンマー パナソニック クボタ	グローバルコンポーネントテクノロジー 日産自動車 トヨタ自動車 マツダ RANE（印） Tokai Imperial Rubber（印） ZF Commercial Vehicle（印）	空圧制御機器メーカー	中国EVメーカー インド農機メーカー Westport（欧） 日本農機メーカー 日本防災ポンプメーカー 日本空調機器メーカー等	本社厚木工場用地の一部を賃貸中
製品	<ul style="list-style-type: none"> CNG車、LPG車、フォークリフト向けの燃料供給システム（ECU、インジェクター、ベーパーライザー、レギュレーター、熱交換器、フィルター、ミキサー、ETB、EGRバルブ等） 	<ul style="list-style-type: none"> 汎用気化器（農業用、産業用）、船舶用気化器、二輪車向け噴射システム、フューエルポンプモジュール、GHP機器等 	<ul style="list-style-type: none"> ガソリン車用のスロットルボディ、気化器、アクセルワイヤユニット、ダィキャスト部品、フォークリフト向けキャブレター 	<ul style="list-style-type: none"> 空圧制御機器部品等 <p>(注)</p> <p>2023年第2四半期連結会計期間において、(株)神奈川精工を子会社化したため産業機器事業をセグメントに追加</p>	<ul style="list-style-type: none"> モーター&ドライバー、電動ブレーキブースター、スマートバルブ、水素用燃料供給システム（インジェクター、レギュレーター、エアバルブ） 	
生産拠点	日本、中国、タイ	インド、中国、日本	日本、インド	日本	日本、中国、インド	

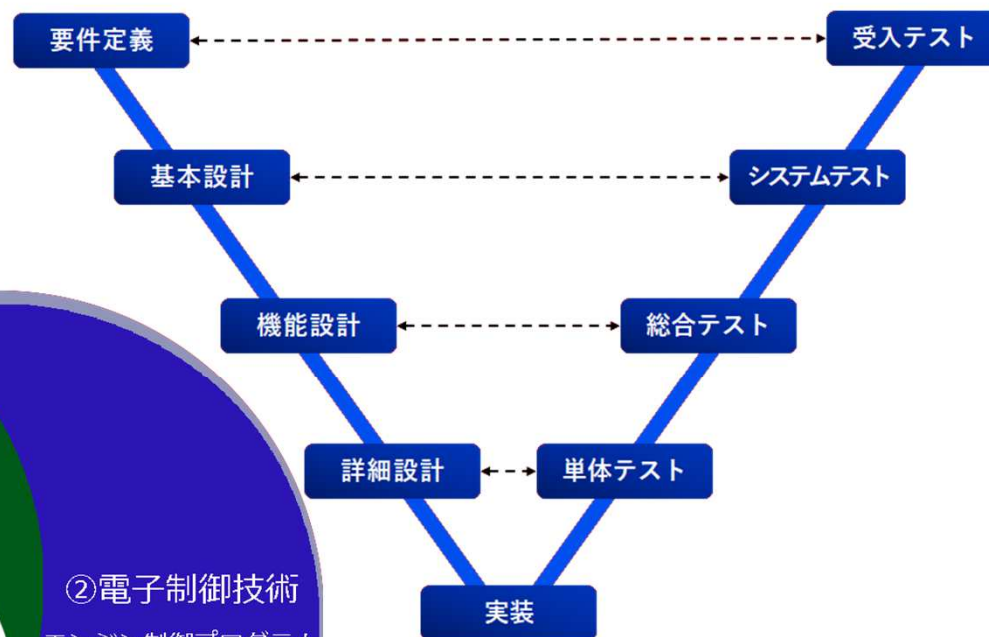
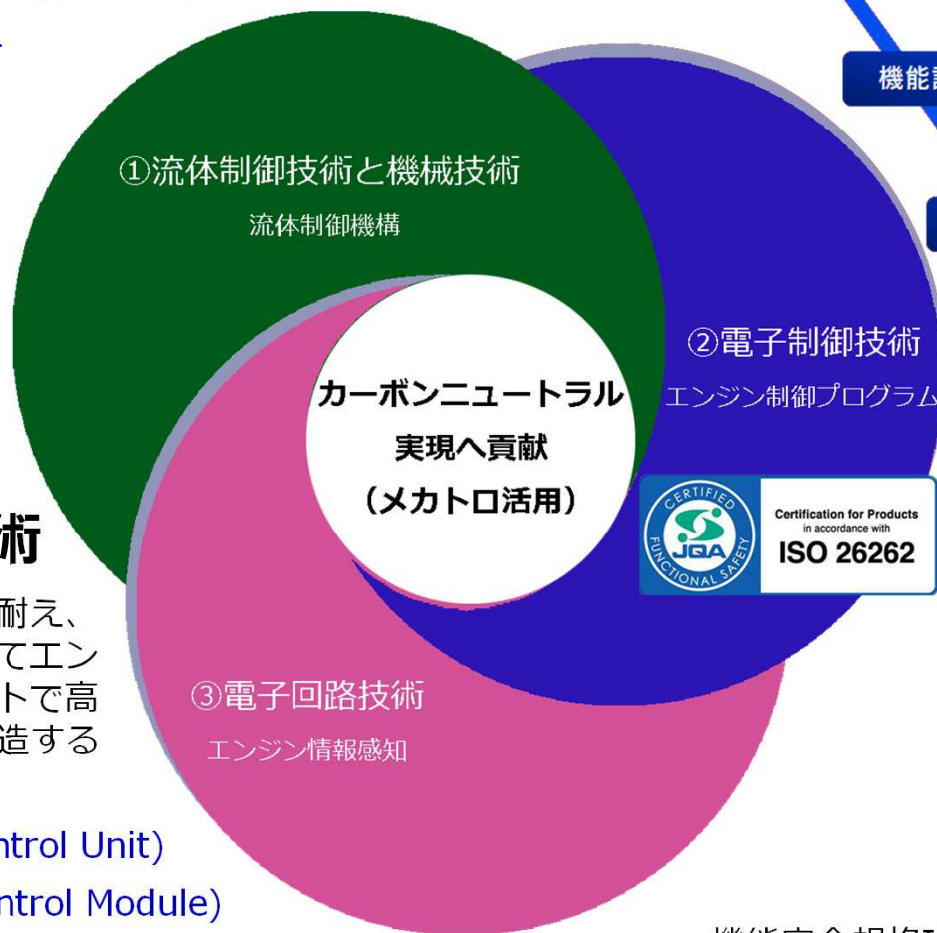
当社の強み 1 - (1)

■ ニッキのモノづくりを支える三つの基盤技術

① 流体制御技術と機械技術

制御機構の最適化により、液体から気体までの幅広い燃料を制御する流体制御と機械制御の技術

- ⇒ ガスインジェクター
- レギュレーター
- 遮断弁
- ETB(Electric Throttle Body)
- ポンプ等



③ 電子回路技術

厳しい使用環境・条件に耐え、制御対象をセンシングしてエンジンを制御するコンパクトで高信頼性なECUを設計・製造する技術

- ⇒ ECU(Electronic Control Unit)
- ECM(Electronic Control Module)

② 電子制御技術

外気温、大気圧、エンジン稼働条件などによつて的確な燃料噴射・点火・スロットル制御を実施し、最適な燃焼、スムーズな加速・トルク、排ガス浄化を実現する電子制御のための開発手法とソフトウェア対応ノウハウ

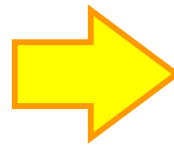
- ⇒ 制御プログラム

機能安全規格ISO26262を取得するとともに、ソフトウェアの開発/検証手法を確立

当社の強み 1 - (2)

■ 電動化への対応

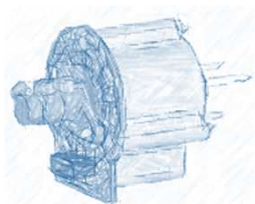
電子制御技術、電子回路技術を活用



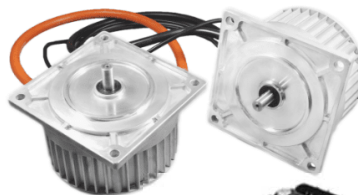
ACサーボモーター&ドライバーを開発

電子制御技術、電子回路技術を活用し、高応答・高精度な位置決めを得意とするACサーボモーターを開発

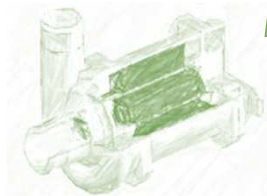
さまざまなモーターが使われている自動車では、高出力で高効率なACサーボモーター&ドライバーの開発は、カーボンニュートラルの実現に大きく貢献



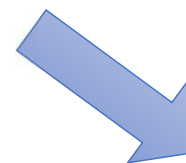
車両補機製品類



芝刈り機製品類



ポンプ製品類

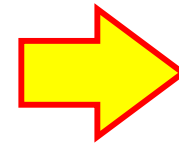


農機製品類

当社の強み 1 - (3)

■ 水素燃料への対応

流体制御技術を活用

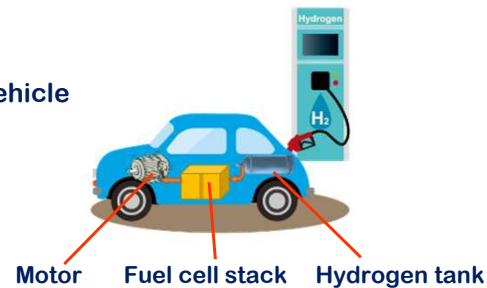


水素用制御機器を開発

水素は、使用してもCO2を排出しない次世代のエネルギーとして期待されている。
ニッキは既存のガス事業技術（流体制御技術）を活用し、水素用制御機器を開発。

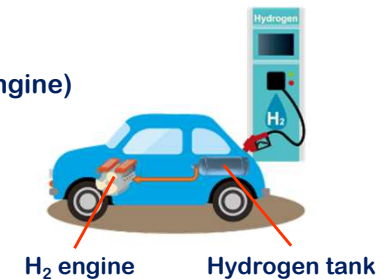
燃料電池車

Fuel Cell Electric Vehicle



水素エンジン車

ICE (Internal Combustion Engine)



コントロールバルブ

インジェクター



エアバルブ

スロットルボディ



高圧レギュレーター



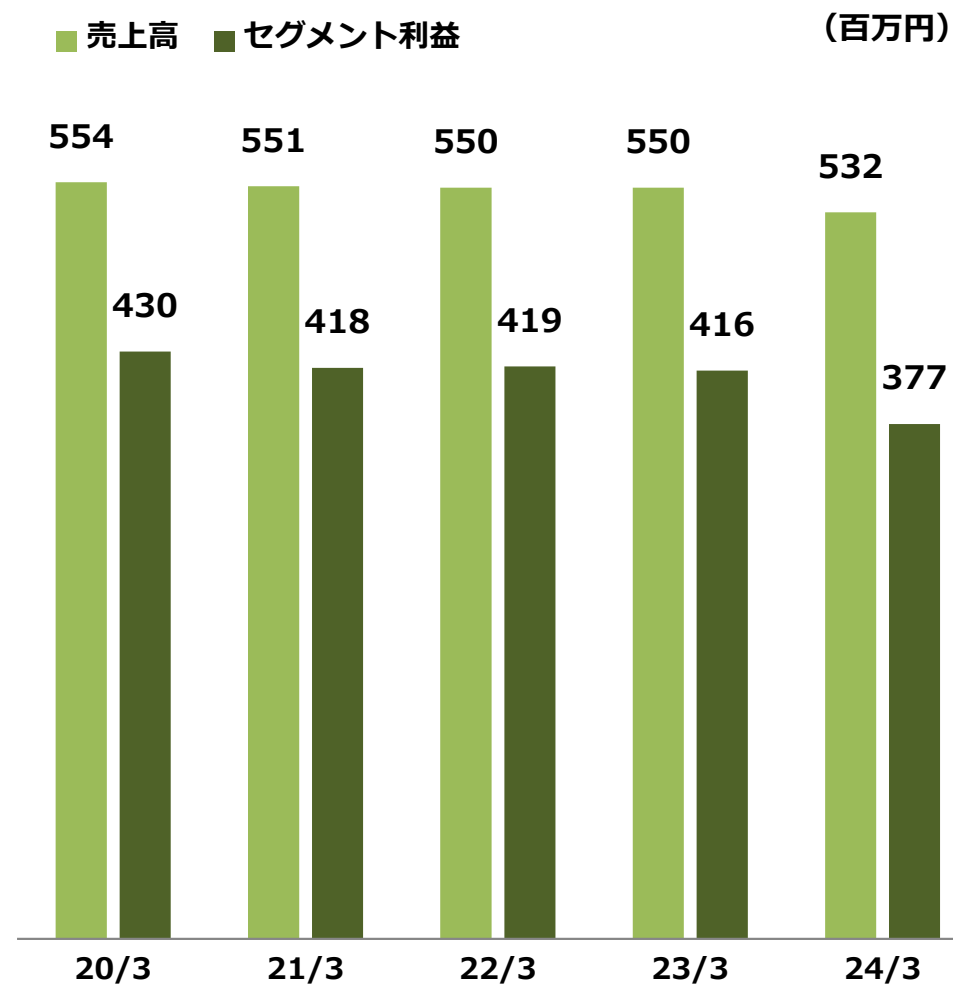
安全弁

ニッキ水素用制御機器は、燃料電池車、水素エンジン車のどちらにも対応可能

当社の強み 2

■ 保有不動産からの安定収益

不動産賃貸事業推移



東京都内に賃貸用ビルを4棟所有。
本社厚木工場用地の一部を賃貸中。
引き続き安定収益を確保していく。

-
1. 会社概要
 2. 2024年3月期決算概要
 3. 2025年3月期の取り組みと業績見通し
 4. 参考資料

2024年3月期 連結損益の概況

売上高 : 中国市場向けガス製品の販売増加等により増加。

利益 : 原材料コスト・物流コストの上昇や減価償却費の増加、電動系新商品の開発費の先行負担等の影響もあり、営業利益、経常利益は減少。親会社株主に帰属する当期純利益は固定資産の譲渡に伴う特別利益の計上等もあり増加。

(単位：百万円、下段は構成比)

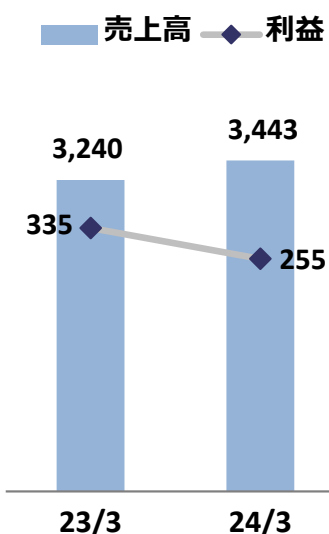
	2023年3月期	2024年3月期				
		実績	前期比	当初計画	計画	計画比
				(5/15公表)	(1/29公表)	
売上高	8,802 (100.0%)	9,355 (100.0%)	+6.3%	8,100 (100.0%)	8,200 (100.0%)	+14.1%
売上総利益	2,753 (31.3%)	2,681 (28.7%)	▲2.6%	-	-	-
販管費	1,584 (18.0%)	1,777 (19.0%)	+12.2%	-	-	-
営業利益	1,169 (13.3%)	904 (9.7%)	▲22.7%	800 (9.9%)	850 (10.4%)	+6.4%
経常利益	1,405 (16.0%)	1,278 (13.7%)	▲9.1%	800 (9.9%)	1,000 (12.2%)	+27.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	878 (10.0%)	2,192 (23.4%)	+149.6%	500 (6.2%)	1,650 (20.1%)	+32.8%

2024年3月期 セグメント別の概況

(単位：百万円)

ガス機器事業

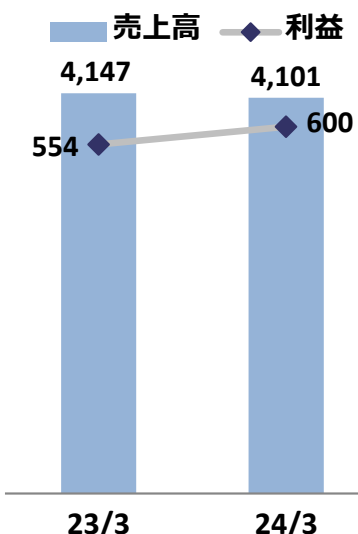
売上高 +6.3%
利益 ▲23.8%



➤ 受託実験の増加や中国市場向けの製品の販売増加等により増収となるが、新商品の立ち上げに伴う投資負担等もあり減益

汎用機器事業

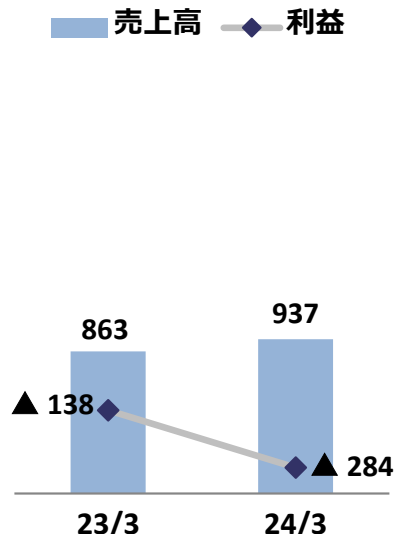
売上高 ▲1.1%
利益 +8.1%



➤ 主要マーケットである米国市場の在庫調整の影響等により減収となるが、為替相場が想定よりも円安基調で推移したこと等により増益

自動車機器事業

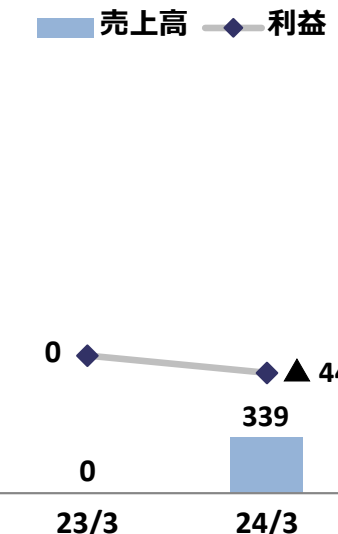
売上高 +8.6%
利益 ▲106.2%



➤ フォークリフト向けキャブレターの販売増加等により増収となるが、電動系新商品の開発費の先行負担等もあり営業損失拡大

産業機器事業

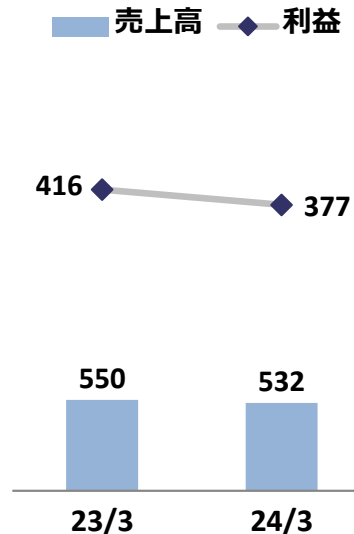
売上高 - %
利益 - %



➤ のれんの償却負担等もあり営業損失計上

不動産賃貸事業

売上高 ▲3.3%
利益 ▲9.2%



➤ 賃貸不動産の変更（譲渡・取得）等により減収減益

2024年3月期 連結貸借対照表の概況

(単位：百万円、下段は構成比)

		2023年3月期末	2024年3月期末		主な増減要因
				前期比増減額	
資産合計	流動資産	9,752 (48.1%)	9,039 (39.2%)	▲713	【流動資産】 ・現金及び預金 ▲500 ・売掛金 ▲139 ・その他流動資産 ▲117
	固定資産	10,524 (51.9%)	14,025 (60.8%)	+3,501	【固定資産】 ・建物及び構築物 +2,016 ・のれん +599 ・投資有価証券 +300
		20,276 (100.0%)	23,064 (100.0%)	+2,787	
負債・純資産合計	流動負債	5,161 (25.5%)	5,992 (26.0%)	+830	【流動負債】 ・未払法人税等 +802
	固定負債	5,285 (26.1%)	4,676 (20.3%)	▲609	【固定負債】 ・預り敷金 ▲460 ・長期借入金 ▲309
	負債合計	10,447 (51.5%)	10,669 (46.3%)	+221	
	純資産合計	9,829 (48.5%)	12,395 (53.7%)	+2,566	・利益余剰金 +2,043 ・為替換算調整勘定 +252 ・その他有価証券評価差額金 +170
	20,276 (100.0%)	23,064 (100.0%)	+2,787		
ネット有利子負債		2,691 (13.3%)	2,993 (13.0%)	+301	

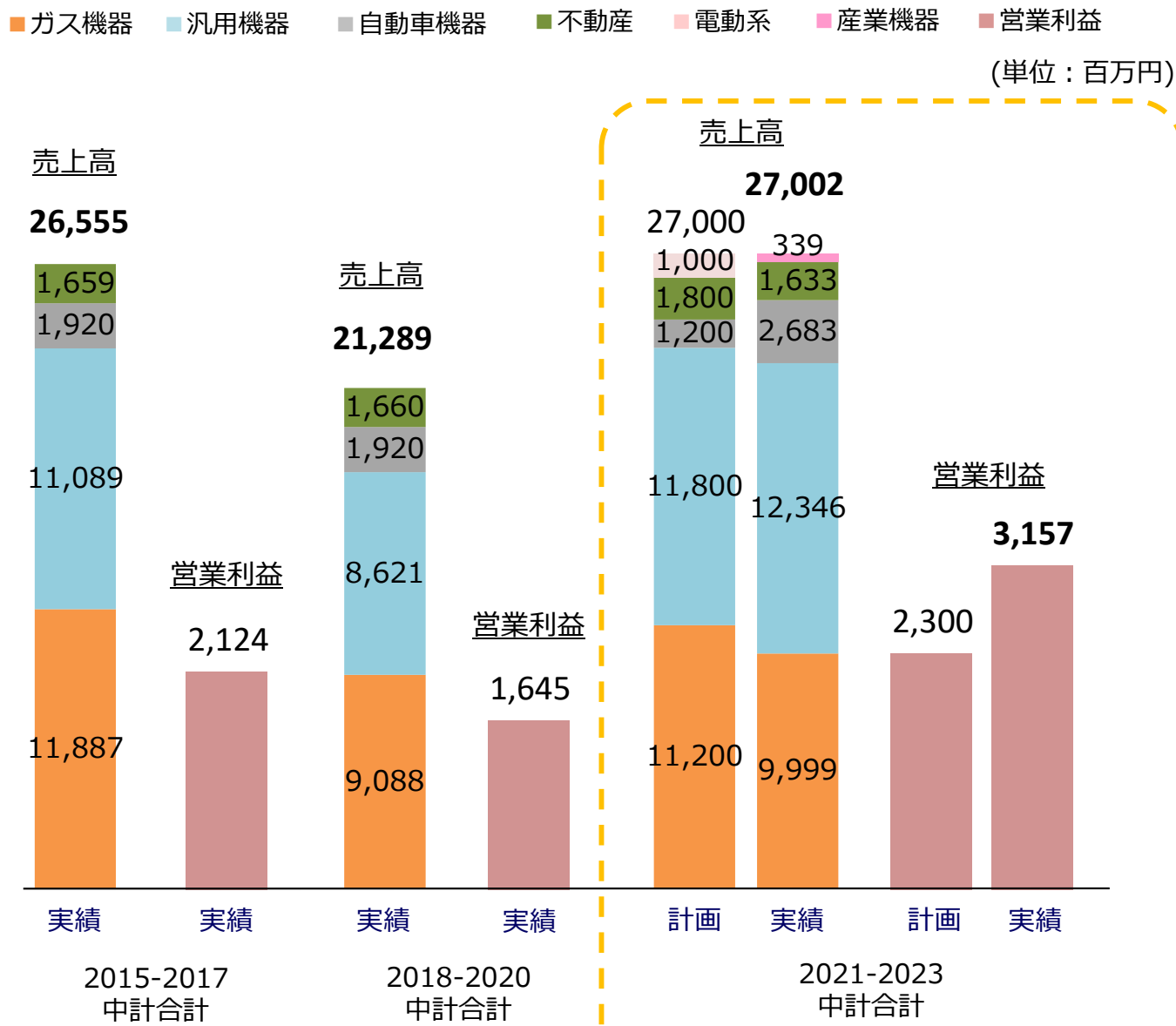
※ネット有利子負債 = (短期借入金 + 長期借入金) - (現金及び預金)

2024年3月期 連結キャッシュフローの概況

(単位：百万円)

		2023年3月期	2024年3月期	2024年3月期	
				主な内容	
営業キャッシュフロー		801	1,918	・税金等調整前当期純利益	3,066
				・減価償却費	673
投資キャッシュフロー		▲2,669	▲2,452	・固定資産売却益	▲1,651
				・有形固定資産の取得による支出	▲4,589
フリー・キャッシュフロー		▲1,867	▲534	・連結の範囲の変更を伴う	
				子会社株式の取得による支出	▲1,227
財務キャッシュフロー		3,188	▲367	・有形固定資産の売却による収入	3,495
				・長期借入金の返済による支出	▲209
換算差額等	117	158	・配当金の支払額	▲147	
現金及び現金同等物の期末残高	4,575	3,831			
設備投資額	1,370	4,242			
減価償却費	545	673			

中期経営計画（2021～2023年度）の総括



<総括>

- 売上高については、北米市場向けガス製品・汎用製品の販売増加、中国市場向けガス製品の販売増加等もあり目標を達成した。新規事業については、産業機器事業を新たに取り込んだが、電動系は市場ニーズの変化への対応に時間を要し量産受注までには至らなかった。
- 営業利益は、生産拠点の見直しや採算性の改善等により目標を達成した。

中期経営計画の進捗状況

新規事業の電動系・水素関連部品の製品開発は着実に進展したが、量産化のスピードが課題。

	重点方針・施策内容		進捗状況・その他
(1)	<p>優先的に取り組むべき新規事業</p> <p>① 脱炭素により今後のボリュームゾーンとなる脱エンジンの新規事業・商品である電動系・メカトロ関連事業に最優先での対応を図る</p> <p>② FCV・水素関連事業は、既存のガス事業技術での延長・拡大での対応が可能であり、従来技術との親和性も高いため積極的な対応を図る</p>	△	<p>(電動系・メカトロ関連事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電動系のPR活動、拡販活動を推進したことにより、日本・中国・インドにて販売候補先の間口を広げることができた。(○) ・市場ニーズが変化したことにより量産受注までに至らなかった。(△) ・顧客との製品開発は着実に進展しているため、市場ニーズを捉えた提案等により量産に繋げていく。(△) <p>(FCV・水素関連事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧州向けに水素用インジェクターの納入を開始したが、各国の水素プロジェクトが遅れたため、受注増加には繋がらなかった。(○△) ・アジア圏メーカーからの開発要請に対応し、水素・アンモニアの車両に当社製品を搭載し、市場モニター中。(○) ・国内大学と水素エンジン開発での共同研究を実施し、筒内直噴システムの研究が進展。(○) ・上記以外からも水素・アンモニア製品の提供要請を受けており、全方位的に拡販活動を進める。(○△)
(2)	<p>重点的に取り組むべき市場</p> <p>① 4輪車・2輪車の最大市場であり、更なる市場規模の拡大が見込める中国市場およびインド市場を引き続き重点市場として対応する</p> <p>② 中国・インドのガス顧客の将来的なFCV（水素）へのシフトも十分見込まれ、今後の新規事業の拡大につなげるため積極的な対応を図る</p>	○	<p>(中国市場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス市場の需要増加にタイムリーに対応することにより、ガスインジェクターの売上が増加。顧客要請により、ETB、EGRバルブの生産能力を増強し、ガス製品の売上増加に繋がった。(○) <p>(インド市場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗用車用CNGレギュレーターを23年度での販売を計画していたが、顧客のサプライヤー選定に時間を要し販売開始時期が遅れた。引き続き顧客等との調整を行ない早期の販売開始を目指す。(○△)
(3)	<p>その他</p> <p>① 顧客ニーズの多様性・高度化への対応を強化するためにファブレス化やモジュール化について検討を進める</p> <p>② 異業種も含めた提携の強化・連携の強化</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・一部製品の外部企業への委託による生産体制を確立した。(○) ・電動製品のPR活動を強化することにより、異業種も含めて開発を進めることができた。引き続き異業種との連携を強化し更なる需要を喚起していく。(○) ・神奈川精工子会社化により産業機器分野へ新たに参入。工場インフラ・FA機器市場への販売を強化していく。(○)

産業機器事業について

■ 株式会社神奈川精工の株式取得に関して

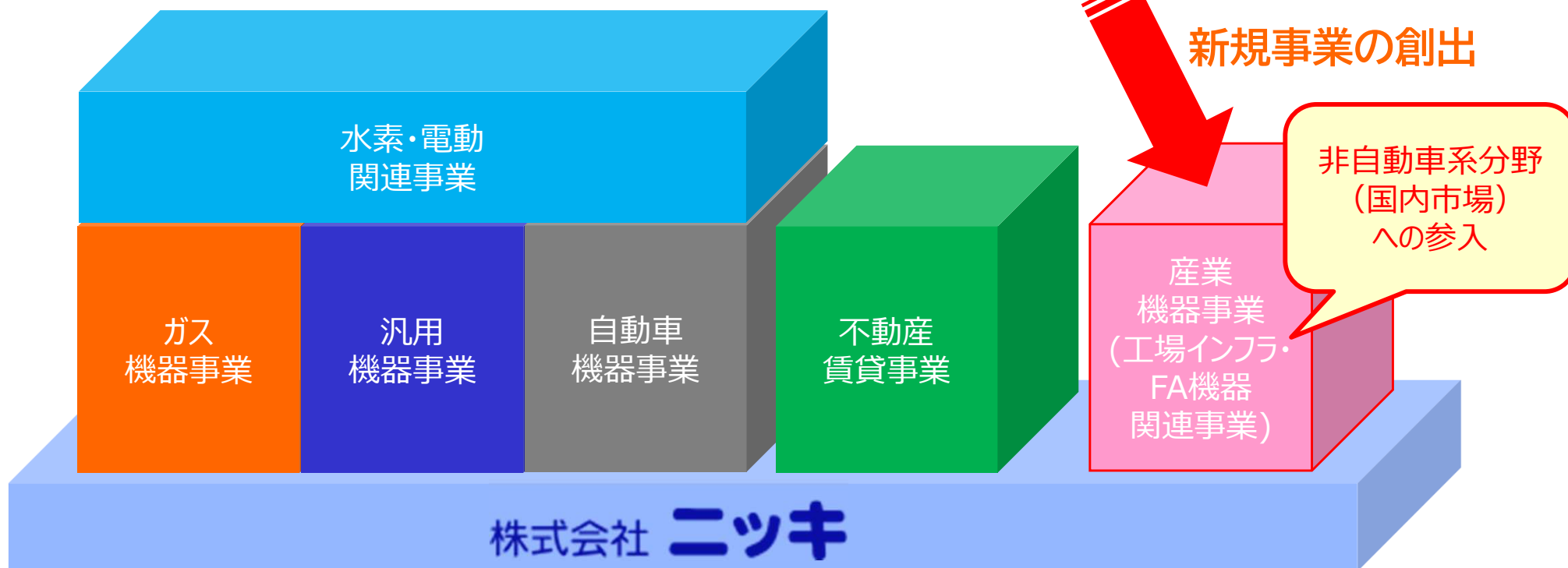
狙い：**当社の事業領域の拡大・事業規模の拡大**



株式会社 神奈川精工

業務内容：ステンレスを中心とした精密部品の切削加工

主要取引先：産業機器関連企業



-
1. 会社概要
 2. 2024年3月期決算概要
 3. 2025年3月期の取り組みと業績見通し
 4. 参考資料

2025年3月期 連結損益の見通し

(単位：百万円)

	2024年3月期実績		2025年3月期計画		
		構成比		構成比	前期比
売上高	9,355	100.0%	8,500	100.0%	▲9.1%
営業利益	904	9.7%	650	7.6%	▲28.1%
経常利益	1,278	13.7%	630	7.4%	▲50.7%
親会社株主に 帰属する当期純利益	2,192	23.4%	350	4.1%	▲84.0%
設備投資額	4,242	45.3%	467	5.5%	▲89.0%
減価償却費	673	7.2%	785	9.2%	+16.6%

■ 業績見通しは、減収減益

- 売上面では、ウクライナや中東地域をめぐる情勢不安、世界的な金融引き締めの影響、中国経済の減速懸念等の海外経済の下振れ等の要因もあり減収を見込む。
- 利益面では、売上高の減少、減価償却費の増加、為替相場が前年度よりも円高基調で推移することが想定されること等により減益を見込む。

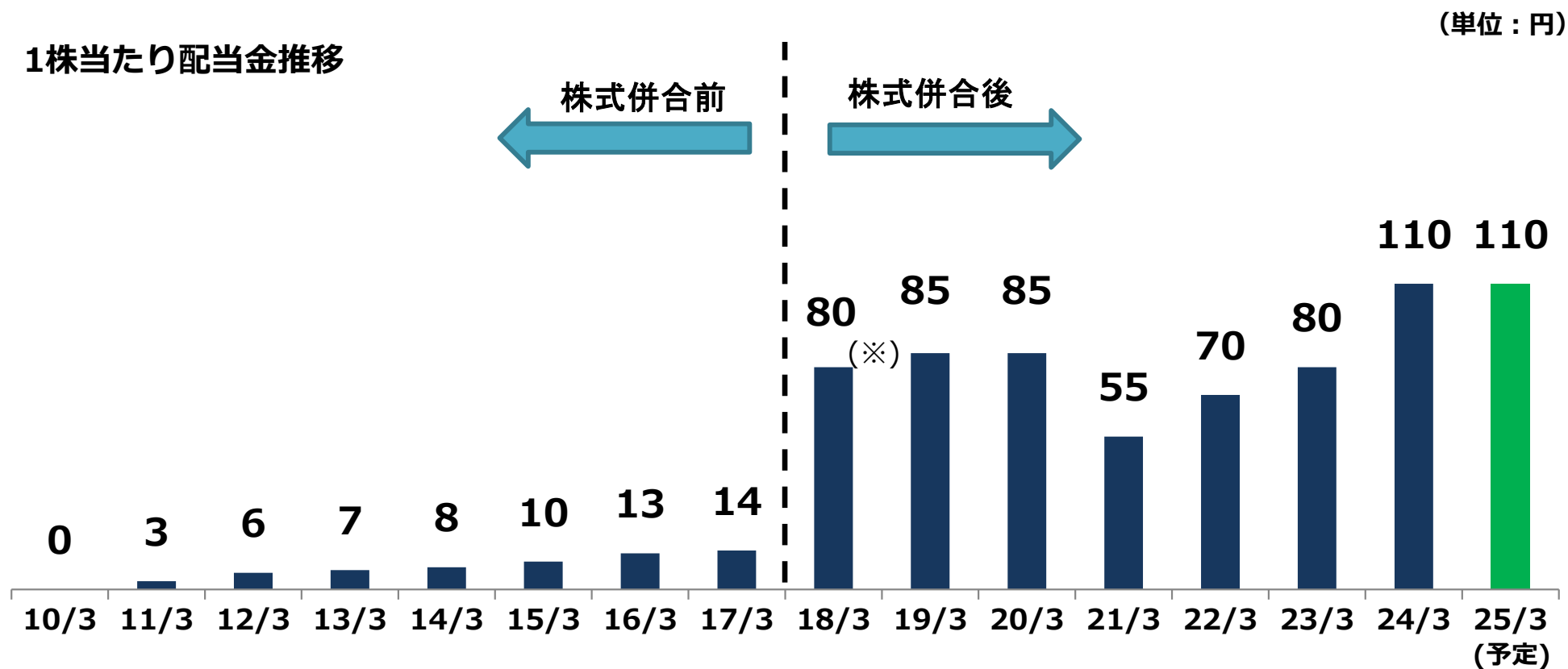
■ 重点施策

- ガス機器事業～中国市場は顧客動向を早期に把握し売上増加に繋げる。インド市場はCNG/LNGビジネスの推進体制の見直し・強化により拡販を図る。
- 汎用機器事業～中国・インド市場向け2輪製品の量産受注と早期立上げに向けた取組みを強化する。国内・米国市場向け汎用気化器は競合他社からシェアを奪取し売上・収益の拡大を図る。
- 新規事業～中国・インド市場への電動系・水素関連商品を確実に立上げ売上拡大を図る。更に産業機器事業の拡販を強化する。
- その他～製造工程におけるロボット化・自動化を推進し生産性の向上・コスト削減を図る。

株主還元方針

- 安定配当をベースに業績及び経営環境等を総合的に加味した配当の継続を基本方針としており、2025年3月期は2024年3月期と同額の110円を予定
(※当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施)
- 資本効率の向上を勘案し、自己株式の取得等について今後も弾力的に実施・検討
- 配当性向：当面、連結ベースで30%を目標とする

1株当たり配当金推移

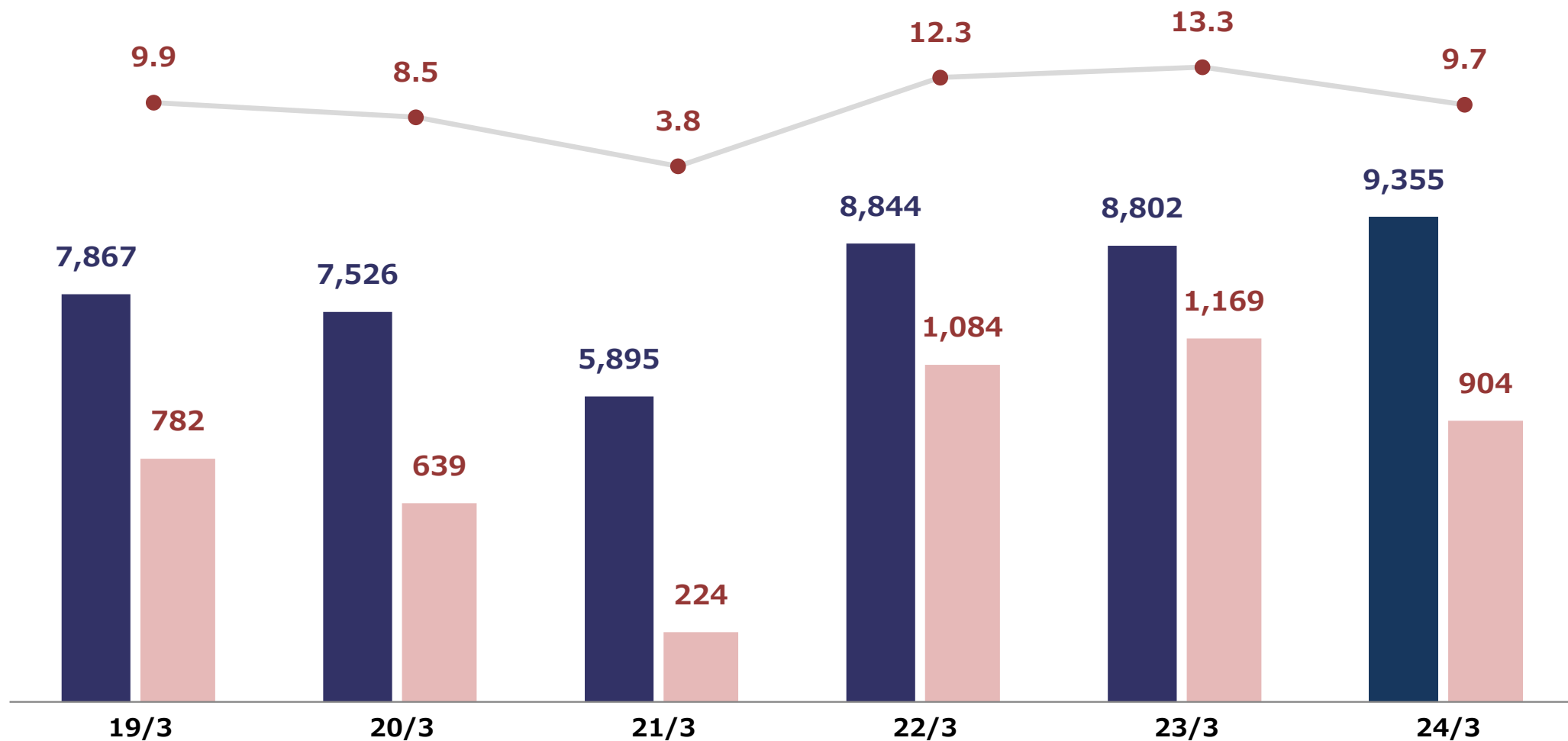


-
1. 会社概要
 2. 2024年3月期決算概要
 3. 2025年3月期の取り組みと業績見通し
 4. 参考資料

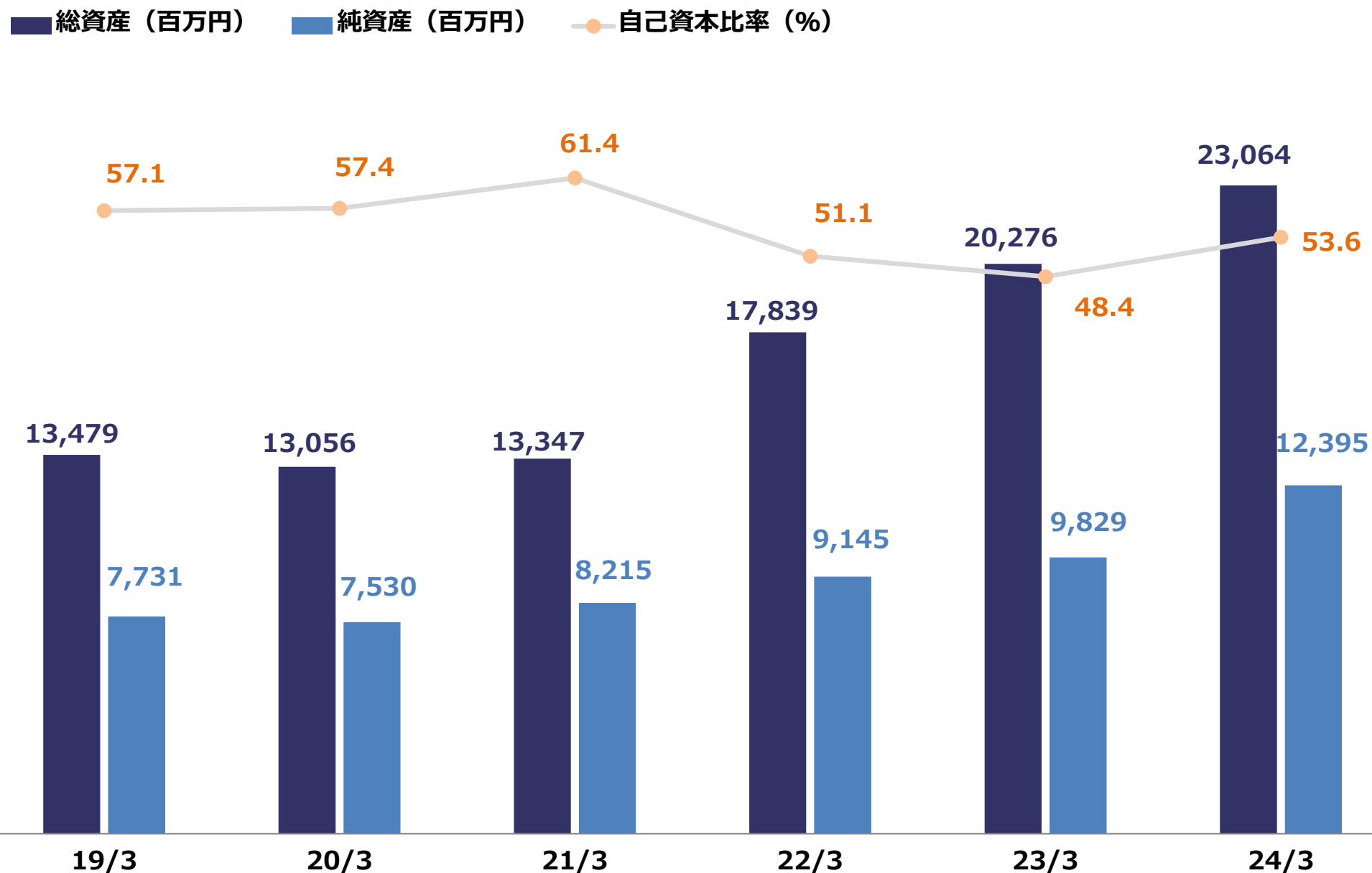
連結業績推移 (1)

■ 売上高 ■ 営業利益 ● 売上高営業利益率 (%)

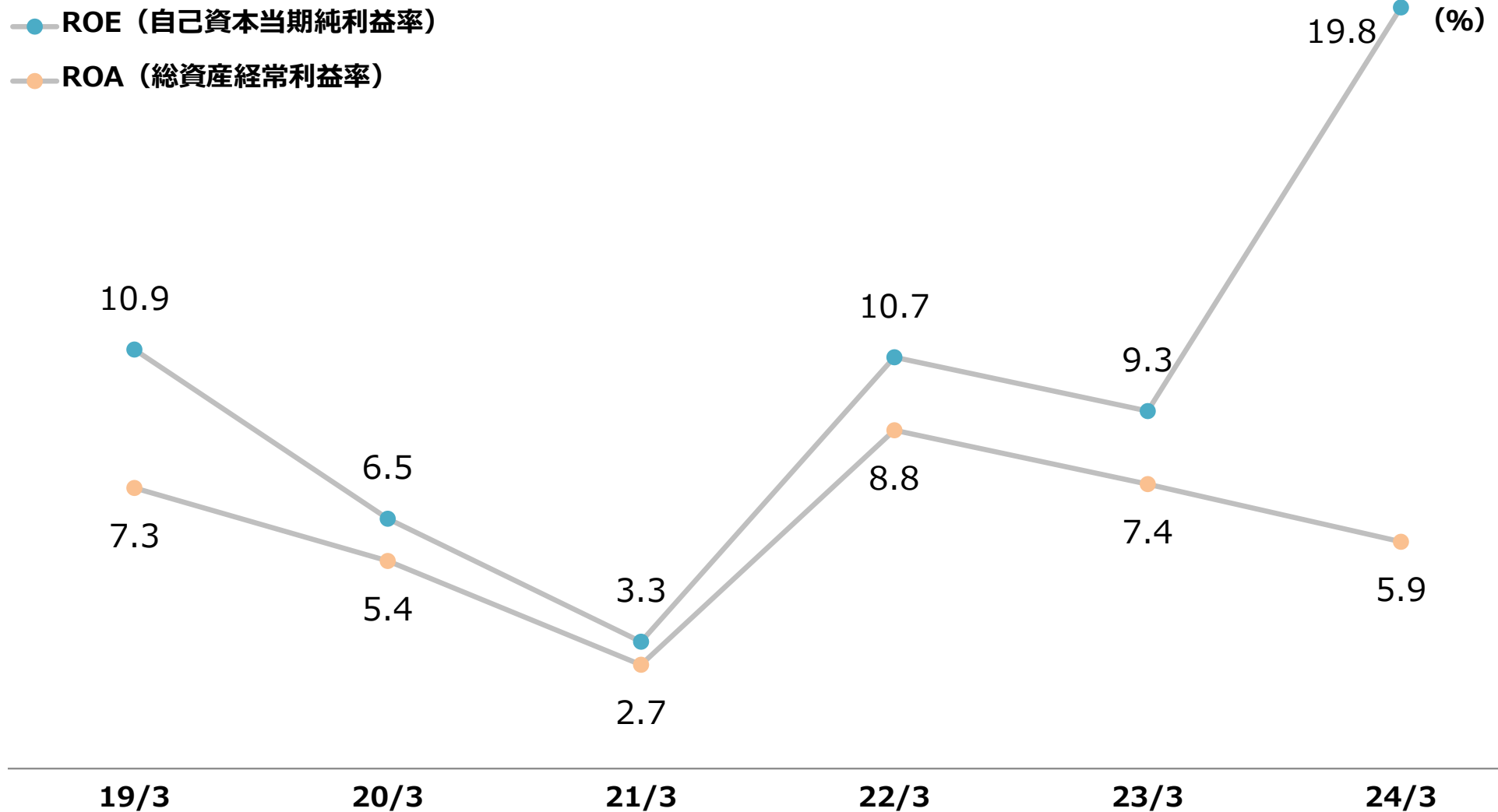
(百万円)



連結業績推移 (2)



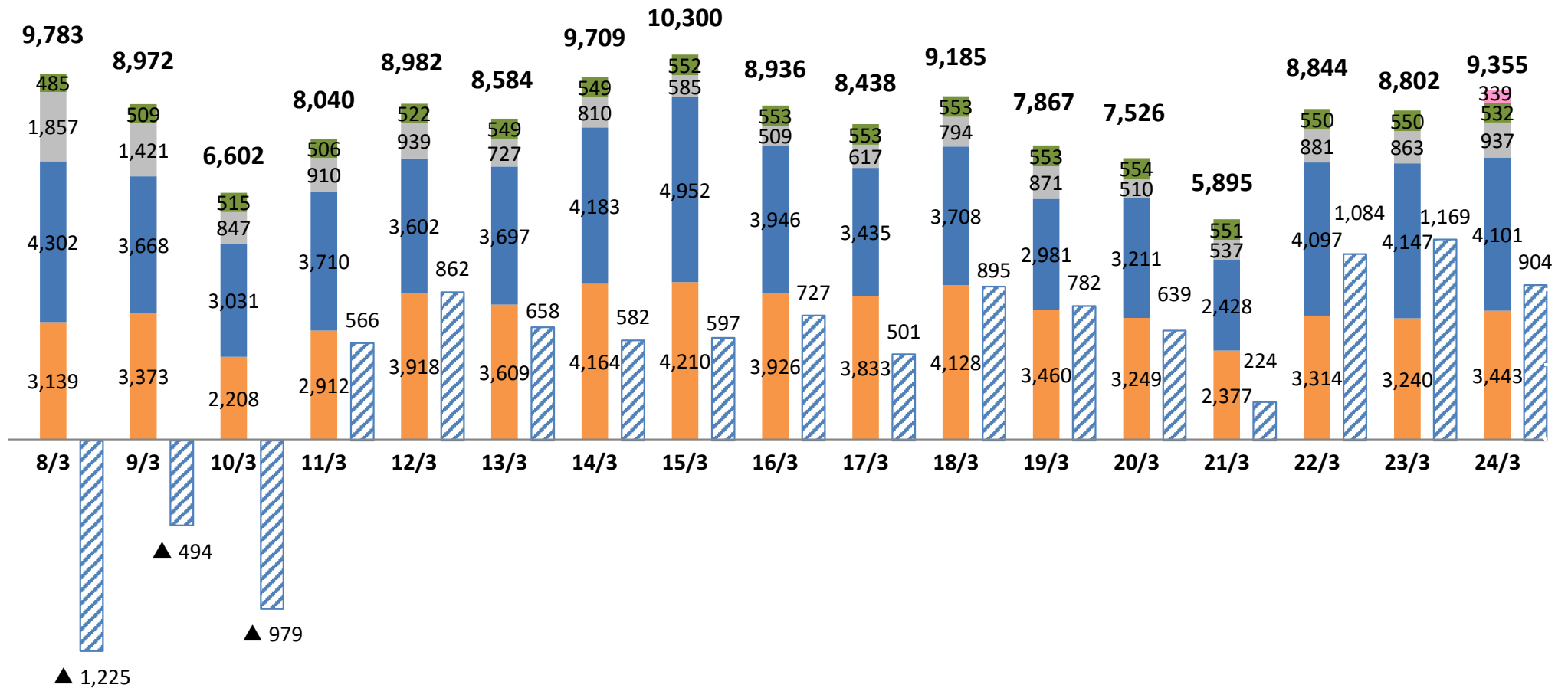
連結業績推移 (3)



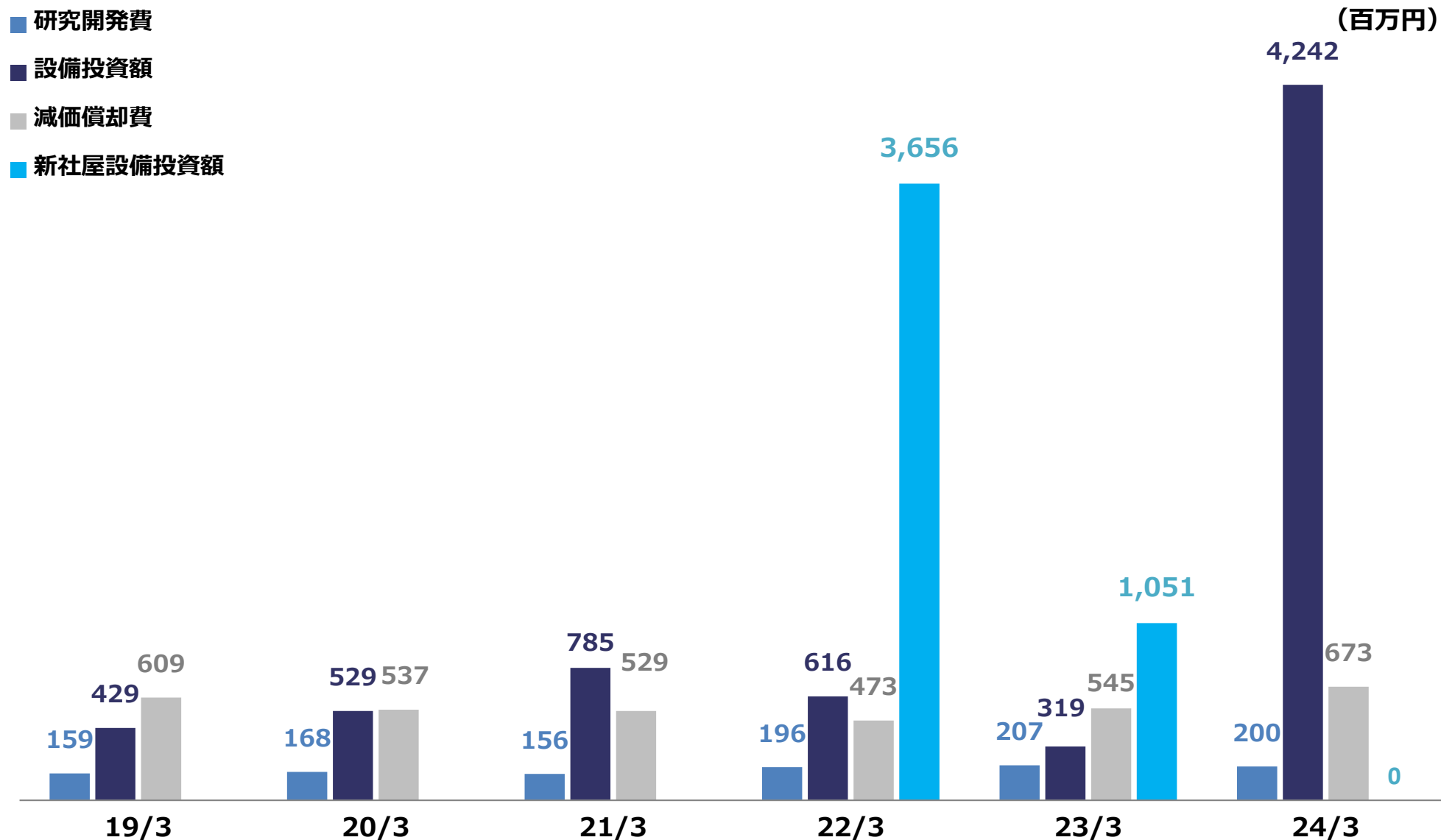
セグメント別外部売上高、連結営業利益推移

(百万円)

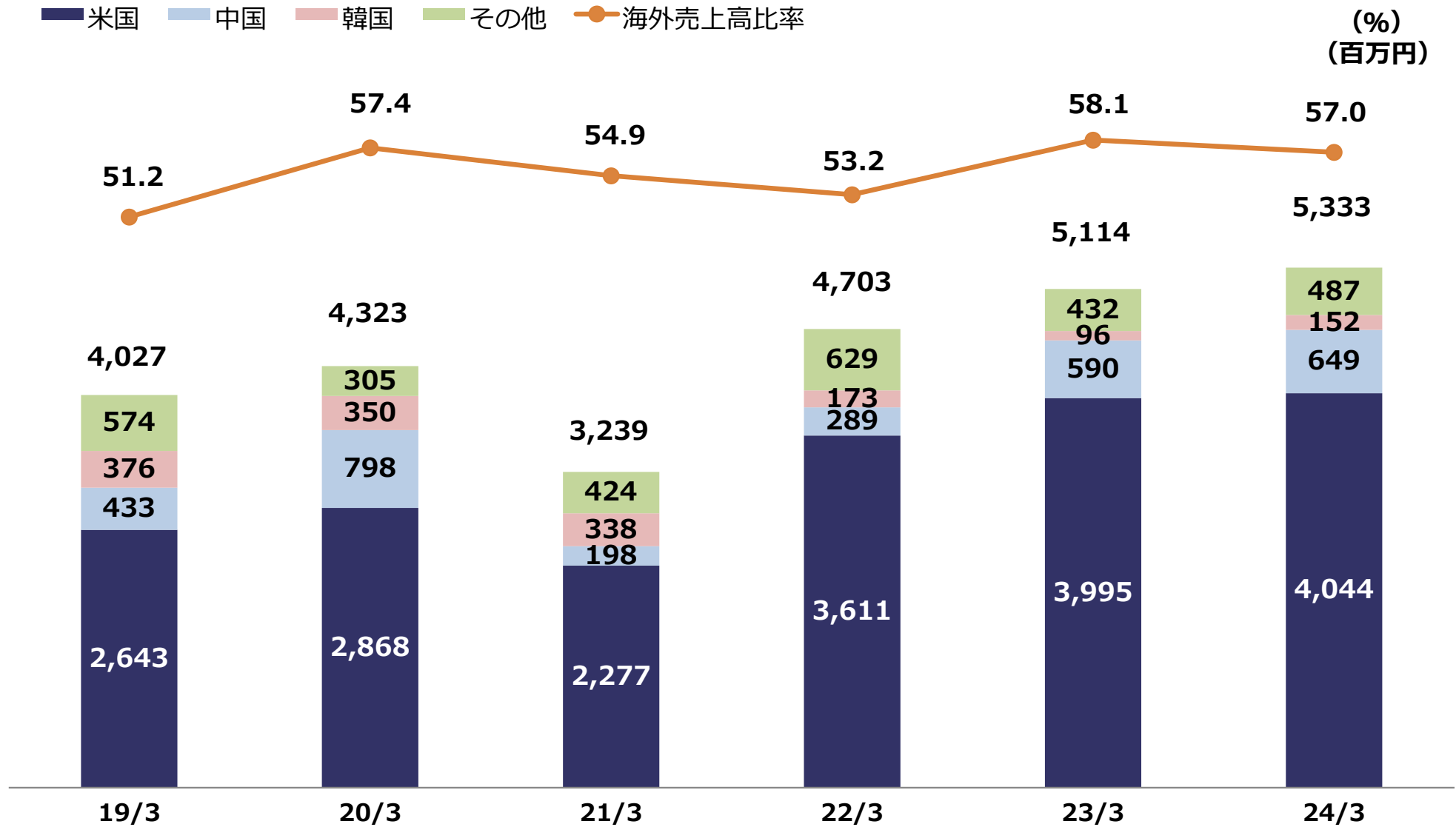
■ ガス機器事業
 ■ 汎用機器事業
 ■ 自動車機器事業
 ■ 不動産賃貸事業
 ■ 産業機器
 ■ 営業利益



研究開発費・設備投資額・減価償却費の推移



海外売上高推移

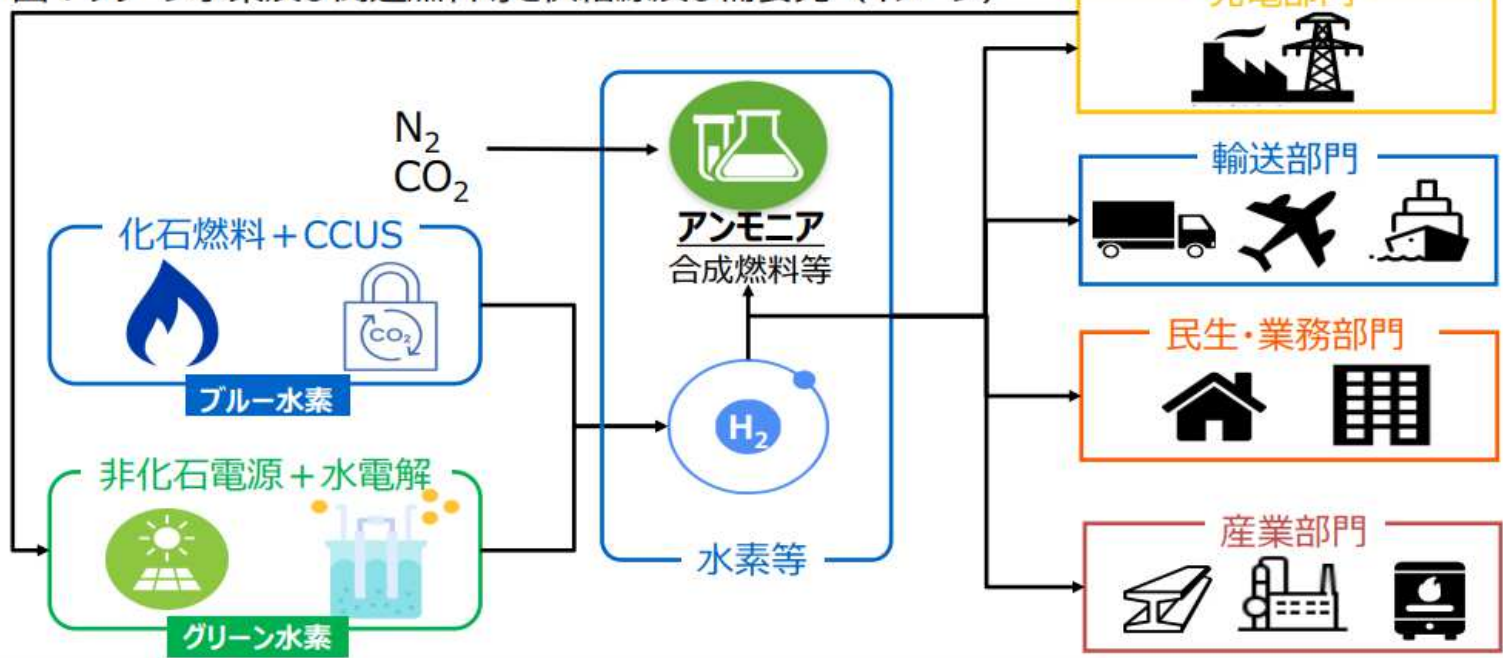


カーボンニュートラルに必要な水素

- 日本はエネルギー基本計画から水素を新たな資源と位置づけ、社会実装を加速させている。

- 水素は直接的に電力分野の脱炭素化に貢献するだけでなく、余剰電力を水素に変換し、貯蔵・利用することで、再エネ等のゼロエミ電源のポテンシャルを最大限活用することも可能とする。
- 加えて、電化による脱炭素化が困難な産業部門(原料利用、熱需要)等の脱炭素化にも貢献。
- また、化石燃料をクリーンな形で有効活用することも可能とする。
- なお、水素から製造されるアンモニアや合成燃料等も、その特性に合わせた活用が見込まれる。

図：クリーン水素及び関連燃料等と供給源及び需要先（イメージ）



出典：2023年1月4日資源エネルギー庁水素政策小委員会/アンモニア等脱炭素燃料 政策小委員会 合同会議 中間整理資料

- 本資料は株式会社ニッキ（以下、当社）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料には当社の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。
- また、経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社ニッキ 総務部経理課

TEL : 046-285-0228 / E-mail : ir@nikkinet.co.jp